

# フライウェイ 通信

2026年3月号

クロツラヘラサギ Photo by 二本敏史

## 2025年度の渡り性水鳥に関する取り組み

守屋 年史(バードリサーチ)



2025年度に行われた渡り性水鳥の保護に関する国際的な取り組みや活動についてご紹介します。

### ラムサール条約締結国会議

2025年7月23～31日にジンバブエ・ビクトリアフォールズで開かれたラムサールCOP15では、25本の決議が採択され、日本関係では猪苗代湖の新規登録湿地認定と、名古屋市「湿地都市」認証が大きな話題でした。シギ・チドリ類、ガンカモ類に関しては、水鳥フライウェイの保全・再生を強化する決議が採択され、東アジア・オーストラリア地域の渡り経路全体での連携が重視されました。さらにGWEP創設と2027年版Waterbird Population Estimates作成が決まり、個体数基準に基づく重要湿地の評価や保全の精度向上に向けて取り組むことが示されました。

### 日中韓豪渡り鳥等保護協定会議

2025年の日中韓豪渡り鳥会議は、10月21～22日に中国・山東省東営市で開かれました。日豪・日中・日韓の二国間協定／協力会合と4か国全体会合を組み合わせた枠組みで、東アジア・オーストラリア地域フライウェイで、シギ・チドリ類を含む渡り鳥を守るために、各国の政策・科学・現場対策を擦り合わせる実務的な国際会議です。各国の行政担当者と専門家が、前回会合以降の渡り鳥保全施策、調査研究

の成果、今後の国際協力の方向性を共有し、次回2027年豪州会合までの重点事項を確認しました。

主な議題は、湿地・渡来地の保全、渡り鳥のモニタリング、調査データ共有、鳥インフルエンザ対応のほか、重点種の保全協力です。日本はモニタリングサイト1000の結果や高病原性鳥インフルエンザ対策を報告しました。中国側報道では、黒嘴鷗(ズグロカモメ)、黒臉琵鷺(クロツラヘラサギ)、白額燕鷗(コアジサシ)などの保全、陸鳥モニタリング、海浜性鳥類保全もトピックとして示され、4か国で監視協力と研究連携を深めることが確認されました。

### EAAFP パートナー会議

2025年11月8～14日にフィリピン・セブで開かれたEAAFP MOP12では、計19本の決定書が採択され、日本からも環境省、NGO、鳥類専門家が参加しました。日本関係では、東よか干潟と米国クパルック湿地の姉妹湿地連携が、フライウェイ全体で優先種・生息地を守る実践例として紹介しました。シギ・チドリ類では、干潟と塩田・水田など生態学的に関連する人工沿岸湿地を対象にした新イニシアチブが決まり、中継地・越冬地の保全強化が前進しました。ガンカモ類を含む渡り性水鳥全体では、フライウェイ・ネットワークサイト情報シートの改訂や、カラーマーキングの協調運用に向けた特別委員会設置が決まり、個体群把握と国際連携の強化が期待されます。

# 第5次レッドリストが公開

守屋 年史(バードリサーチ)

## 第5次レッドリストの特徴

第5次レッドリストの最大の特徴は、これまで陸域と海域で分かれていた検討体制を統合し、共通の手引に基づいて評価を進めている点です。環境省は2020年度から第5次レッドリストの作成作業を進めており、現在は海洋生物を含む16分類群を対象に順次公表しています。また、第5次では全分類群で定量評価を行うこととされ、従来の定性評価中心の部分が見直されました。さらに、レッドリストだけでなくレッドデータブックも併せて公表されており、単なるカテゴリー一覧ではなく、各種の生息状況、評価理由、脅威要因まで含めて示されている点にも大きな意義があります。

## 水鳥に関するレッドリスト選定の概要

第5次の鳥類評価では、水鳥について、近年の個体数減少を反映した見直しが目立ちます。特に、キンクロハジロ、ウミネコ、ゴイサギのように、一般には普通種と考えられていた種も、近年の急激な減少にともない絶滅危惧種として掲載されました。一方で、ハクガンとシジュウカラガンはVU、ヒシクイはNTとして掲載されており、悪化した種だけでなく、保全の進展や再評価により相対的に危険度が見直された種もあります。

## シギ・チドリ類

シギ・チドリ類は、干潟、河口、農地、砂浜など多様な環境を利用する渡り性水鳥ですが、渡来地や越冬地の改変の影響を強く受けやすく、多くの種で高い絶滅危険度が示されています。今回、コシヤクシギとツルシギがEN、アカアシシギとヘラシギがCR、ムナグロ、シロチドリ、ホウロクシギ、オオソリハシシギ、ハマシギ、タカブシギ、ツバメチドリがVUに掲載されています。また、シギ・チドリ類などの渡り性水鳥が利用する主要渡来地のうち、干潟・湿地の66.7%が保護区

域未指定であることが示され、保護指定の遅れが指摘されています。長距離渡りを行う種では、国内だけでなく繁殖地・中継地・越冬地それぞれの脅威がある点も重要です。

## ガンカモ類の概要

ガンカモ類では、今回、サカツラガンとアカハジロがCR、ハクガンとシジュウカラガンがVU、ヒシクイがNTとして掲載され、マガンは掲載されていません。危険度の高い種と、保全や再評価によって相対的に危険度が下がった種が併存しています。キンクロハジロは新たにVUとなっており、2020年以降は約6万羽まで低下したこと、さらに東京湾や伊勢湾・三河湾でのアサリなどの底生生物の餌資源減少が要因と考えられることが示されています。ガンカモ類の評価では、今後も全国的な越冬調査の継続調査が重要と考えられます。

表：今回掲載のシギ・チドリ類とガンカモ類の絶滅危惧種

第5次レッドリストカテゴリ	和名	前回
絶滅危惧IA類 (CR)	ヘラシギ	CR
絶滅危惧IA類 (CR)	カラフトアオアシシギ	CR
絶滅危惧IA類 (CR)	アカアシシギ	VU
絶滅危惧IB類 (EN)	コシヤクシギ	EN
絶滅危惧IB類 (EN)	ツルシギ	VU
絶滅危惧II類 (VU)	ムナグロ	—
絶滅危惧II類 (VU)	シロチドリ	VU
絶滅危惧II類 (VU)	ホウロクシギ	VU
絶滅危惧II類 (VU)	オオソリハシシギ	VU
絶滅危惧II類 (VU)	ハマシギ	NT
絶滅危惧II類 (VU)	タカブシギ	VU
絶滅危惧II類 (VU)	ツバメチドリ	VU
第5次レッドリストカテゴリ	和名	前回
絶滅危惧IA類 (CR)	サカツラガン	DD
絶滅危惧IA類 (CR)	アカハジロ	DD
絶滅危惧IB類 (EN)	カリガネ	EN
絶滅危惧II類 (VU)	シジュウカラガン	CR
絶滅危惧II類 (VU)	ハクガン	CR
絶滅危惧II類 (VU)	コクガン	VU
絶滅危惧II類 (VU)	キンクロハジロ	—

フライウェイ通信 2026年 3月号(水鳥通信号外)

発行元： 特定非営利活動法人 バードリサーチ  
〒183-0034 東京都国立市東1-4-28-302  
TEL & FAX 042-505-4044  
E-mail: br@bird-research.jp

発行者： 高木憲太郎

URL: <http://www.bird-research.jp>

編集者： 守屋年史

タイトル写真募集中！

ご提供いただける方は  
写真を電子メールにてお送りください！